

大牟田市における見守り事業

～ 「これまで」と「これから」 ～



saru@shirakawa.or.jp

医療法人静光園白川病院 医療連携室長
(大牟田市役所 保健福祉部 福祉課)

猿渡 進平

福岡県大牟田市の概況

- 大牟田市の人口
約210,000人 (1960年) ⇒ 110,590人 (2021年10月)
- 高齢者数 41,242人
高齡化率 37.3%
- 世帯数 56,059戸
高齡者のいる世帯 30,407戸
高齡者単身世帯数 14,929戸
- 小学校数(日常生活圏域) 19小学校
- 地域包括支援センター数 6か所(委託)
- 要介護認定率 17.8%
- 初期集中支援チーム数 1チーム
- 認知症地域支援推進員 1人(兼務)

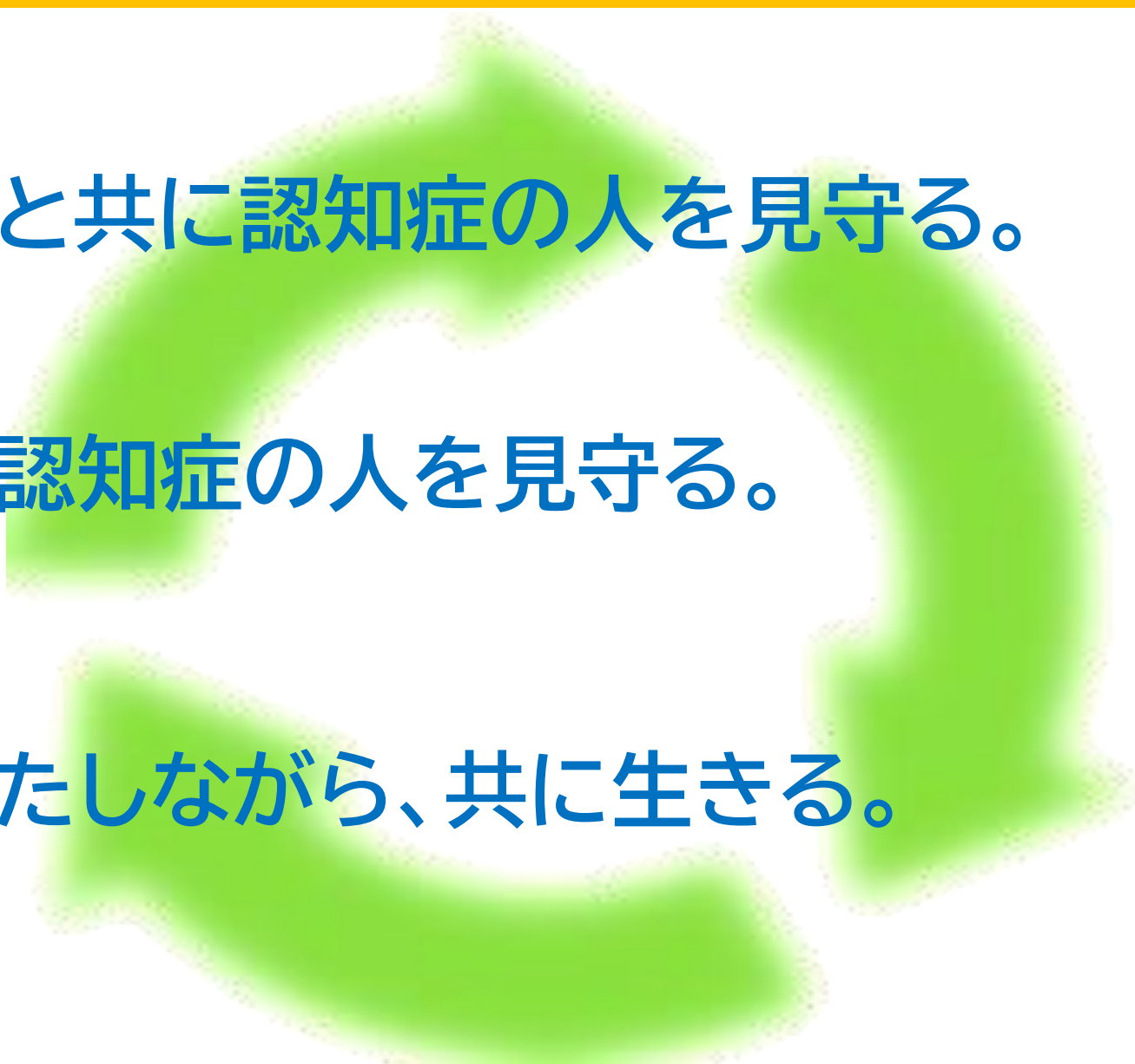
* 2021年10月現在



大蛇山祭り



宮原坑(世界文化遺産)

- 
- ① 地域住民と共に認知症の人を見守る。
 - ② 町全体で認知症の人を見守る。
 - ③ 役割を果たしながら、共に生きる。

認知症SOSネットワーク模擬訓練 SINCE 2004

1. 認知症の人と家族を支え、見守る地域の意識を高め**認知症の理解**を促進していく
2. 高齢者を隣近所、地域ぐるみ、多職種協働により可能な限り、声かけ、見守り、保護していく**実効性の高いしくみ**の充実
3. 認知症になっても安心して暮らせるために、「**安心して外出できる町**」を目指していく



認知症SOSネットワーク模擬訓練に向けた取り組み

各小学校校区での実行委員会の設立

声かけ訓練や情報伝達網の再整備、認知症サポーター養成講座など必要となる取り組みについては、各校区それぞれにおいて検討を進め、訓練当日に先立つ準備として各校区で事前に実施する。

実行委員会メンバー（校区によってメンバーは異なる）

- 民生委員・児童委員協議会
- 校区町内公民館連絡協議会
- 校区社会福祉協議会
- 地域の医療、介護事業所(事務局)
- 地域包括支援センター
- 認知症ライフサポート研究会運営委員
- 大牟田市長寿社会推進課

第1回 認知症SOSネットワーク模擬訓練



開催日：平成19年9月23日(日)

参加者：9名

外出役：1名

訓練結果：2時間歩き1件の声掛け

実行委員を中心に事務局に集合し開会式
(認知症サポーター養成講座・声掛けの方法
・道に迷った方を見つけた際の連絡先等)
を実施。

その後に、外出役に対し、声をかける。

*連絡網無し。啓発メイン。

認知症SOSネットワーク模擬訓練後のフォロー



①現実に目を向け“他人事”から“自分事”へ

②新たな組織が加わり事業が活発化

認知症SOSネットワーク模擬訓練 を通して見えてきた課題

住民同士が知り合い、関係性を作る為に
地域での「ふれあいの場所」をつくる。



- ・隣り近所の付き合いをベースに情報を広げる。
- ・本人の地域での繋がりを保つ関係づくり。
- ・「認知症」を地域で公言できる関係づくり。



第2回 認知症SOSネットワーク模擬訓練からの展開

地域住民間の情報交換や悩み相談場所
としての拠点が必要



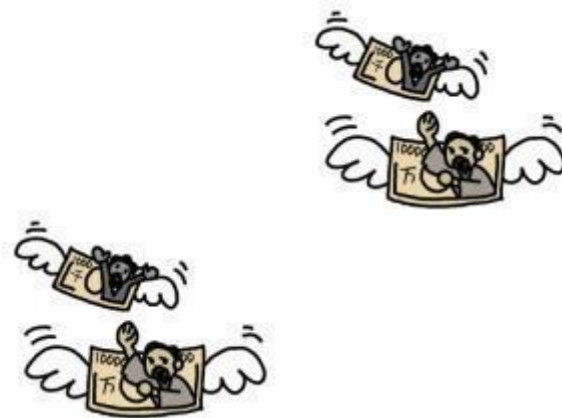
自宅から徒歩で通える距離につくる。

地域の拠点設置に向けての課題

サロンなどの開設には資金が必要。

また契約行為は誰がするのか。

- サロンの開業資金、運転資金
- ボランティア保険への加入
- 継続的な事業開催費



などを確保しなくてはならない。

それらの課題を乗り越えていくために

3点の問題から法人格取得

① 社会的信用獲得

- ・空家の契約とボランティアの提供

② 自主財源確保による連帯感と目的

- ・目標に到達するという契機と資金の透明化

③ 継続性、自主性を持たせる為の組織化

- ・責任感の獲得と入りやすさ



NPO法人 の 設立

NPO法人 しらかわの会の設立

- 開催日:平成21年11月15日
- 出席者:54名



基本目的

「NPO法人 しらかわの会」の活動計画

高齢者、障害者等の世帯を対象に個別訪問を実施し、家事支援及び生活相談に応じ自宅で安心して生活できるように支援する。また安心して住める町づくりを目指す為、環境整備や安全確保を重点に地域の活性化に寄与する。

事業名	具体的内容	実施予定
・日常生活支援事業	・個別訪問による対応 ・買い物運送バス ・サロン事業 ・外国人への日本語教室	随 時
・環境美化部会	・堂面川河川敷清掃 ・地域内の清掃活動	1回／年 1回／年
・安心、安全部会	・防犯灯及び危険箇所点検 ・地域広報誌発行	2回／年 随 時
・こども部会	・通学路点検 ・学校諸行事の支援 ・こどもの居場所づくり ・障害児の登下校支援	2回／年 随 時
・自治体及び他団体の支援事業	・認知症SOSネットワーク 模範訓練 ・白川まつり	1回／年 1回／年

5 自治体他団体との協力事業

(認知症SOSネットワーク模擬訓練)



	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度 (2回)
外出役	1名	6名	20名	26名	26名	26名	26名	50名	26名	13名
参加者	9名	87名	240名	165名	167名	162名	185名	232名	192名	202名
声かけ	1件	35件	361件	247件	268件	317件	299件	492件	304件	151件

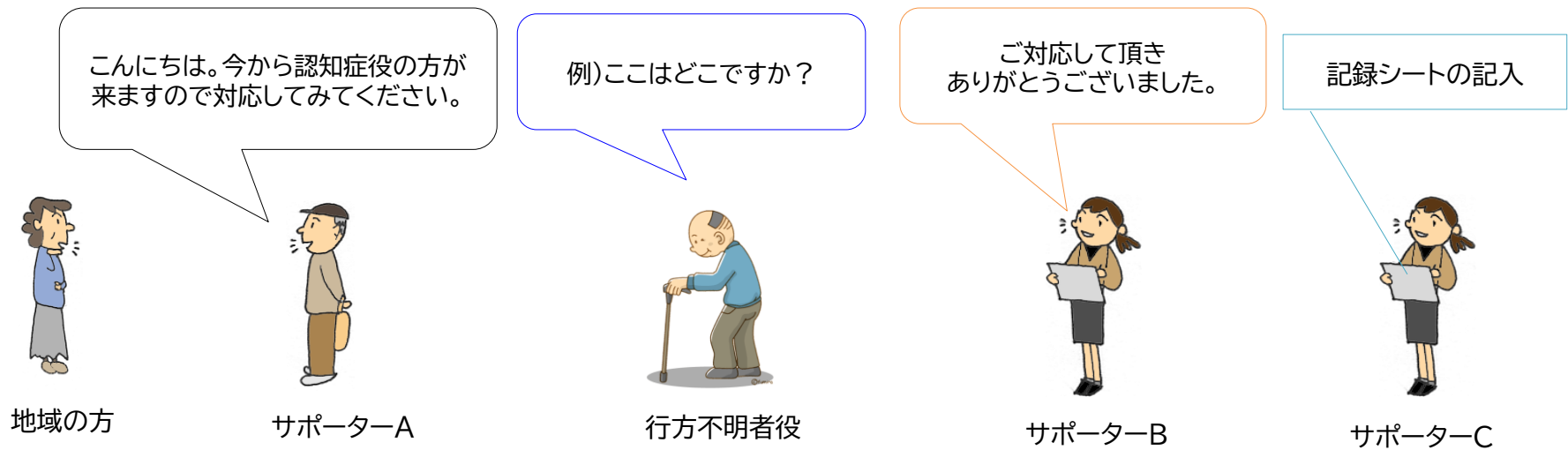


啓発重点型



情報
伝達

行方不明者役・サポーターの役割



・それぞれに、記録や徘徊役のフォローなどの役割を持つ。

5 自治体他団体との協力事業

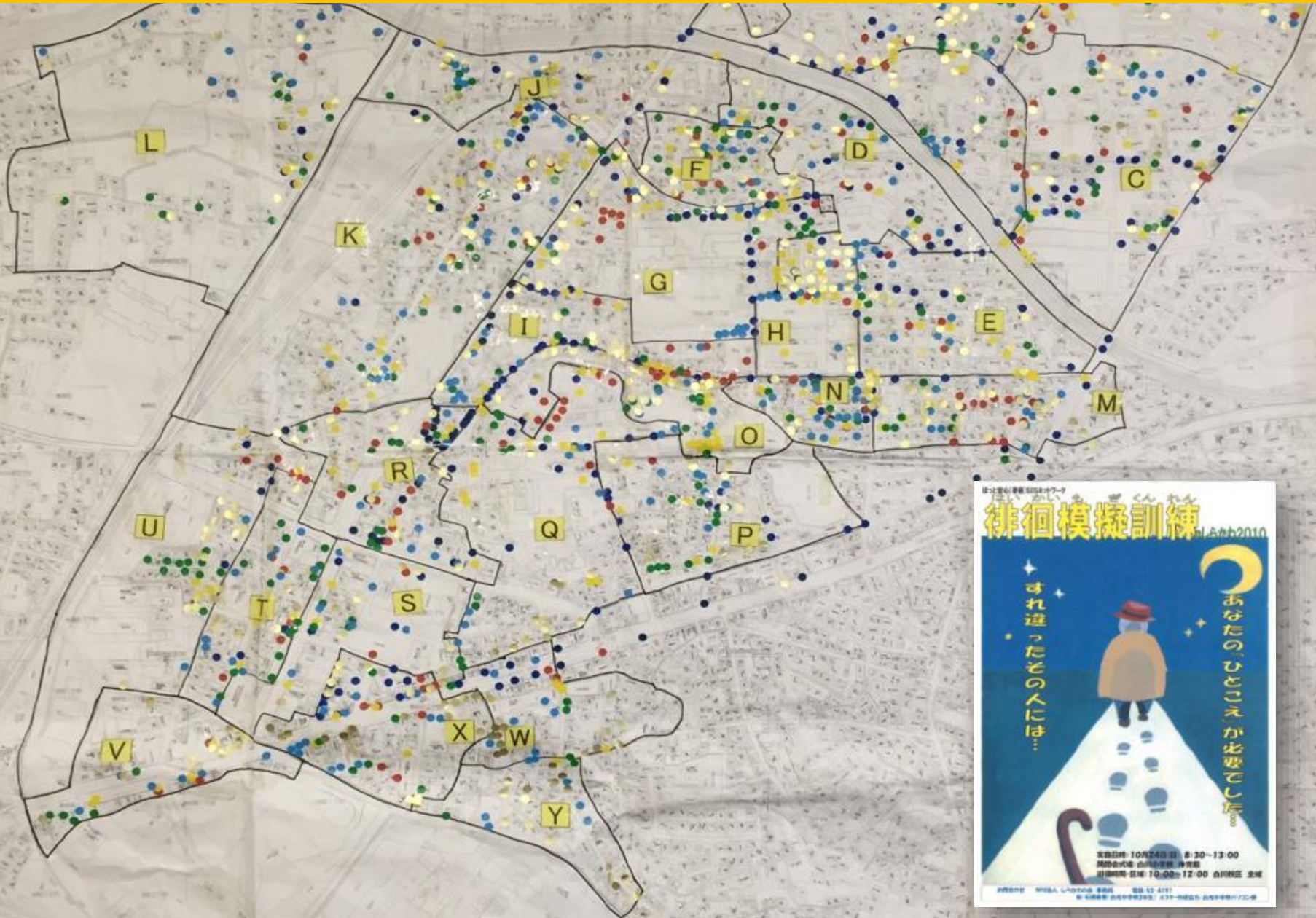
(認知症SOSネットワーク模擬訓練)

2014年度 認知症SOSネットワーク 実施状況



5 自治体他団体との協力事業

(認知症SOSネットワーク模擬訓練)



徘徊模擬訓練
2019.6.28

すれ違ったその人には...
あなたのひとこえが必要でした...

実施日時: 10月24日(日) 8:30-13:00
開催会場: 古川地区センター 浄土館
対象時間: 10:00-12:00 自由参加 全席

主催: NPO法人 認知症SOSネットワーク
協賛: 認知症SOSネットワーク

5 自治体他団体との協力事業

(認知症SOSネットワーク模擬訓練)

スタッフ 集合写真

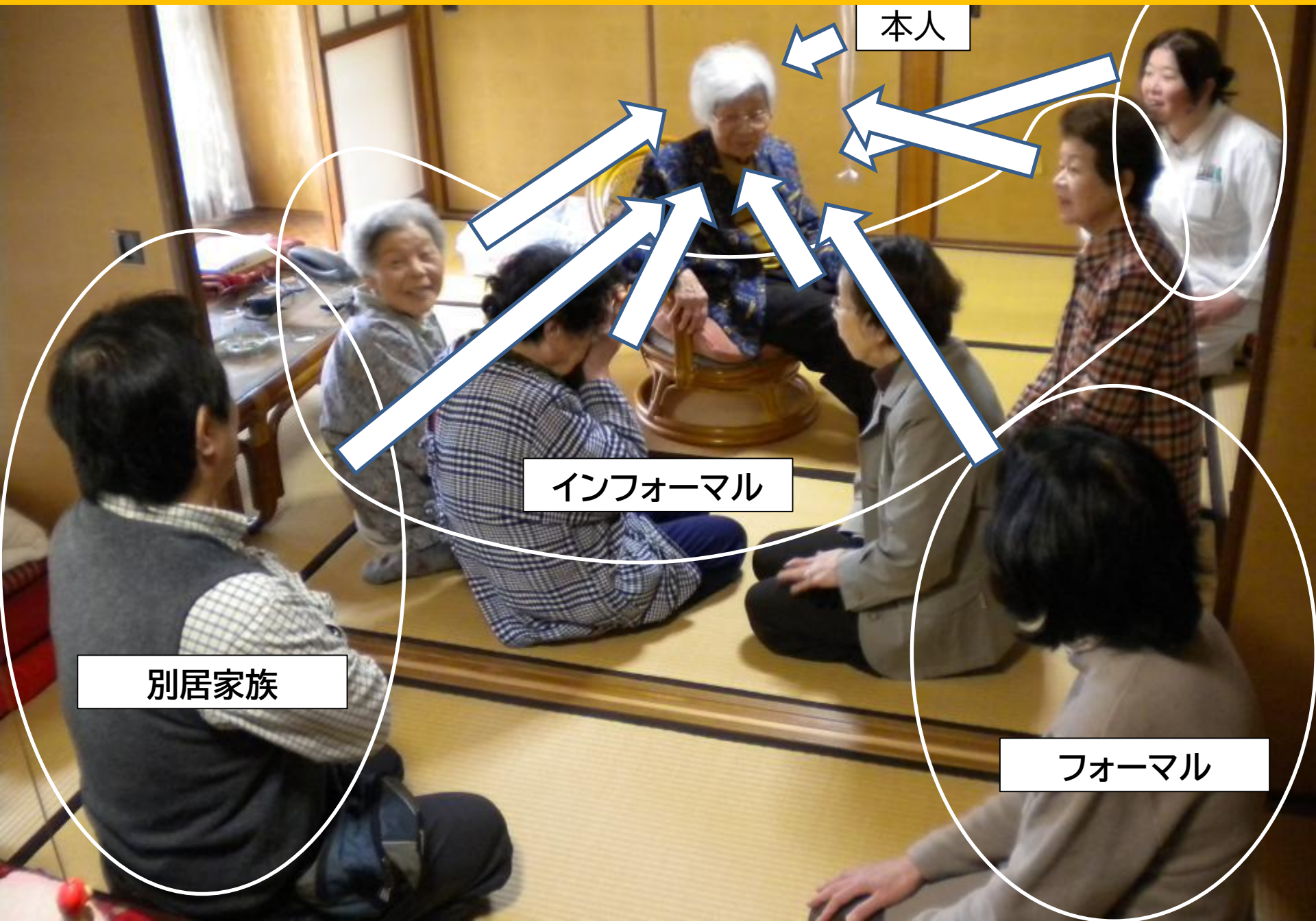


医療機関、介護施設として

“利用者”と“地域”との連携

インフォーマルを中心とした支援

これらの取り組みから生まれて来た事例



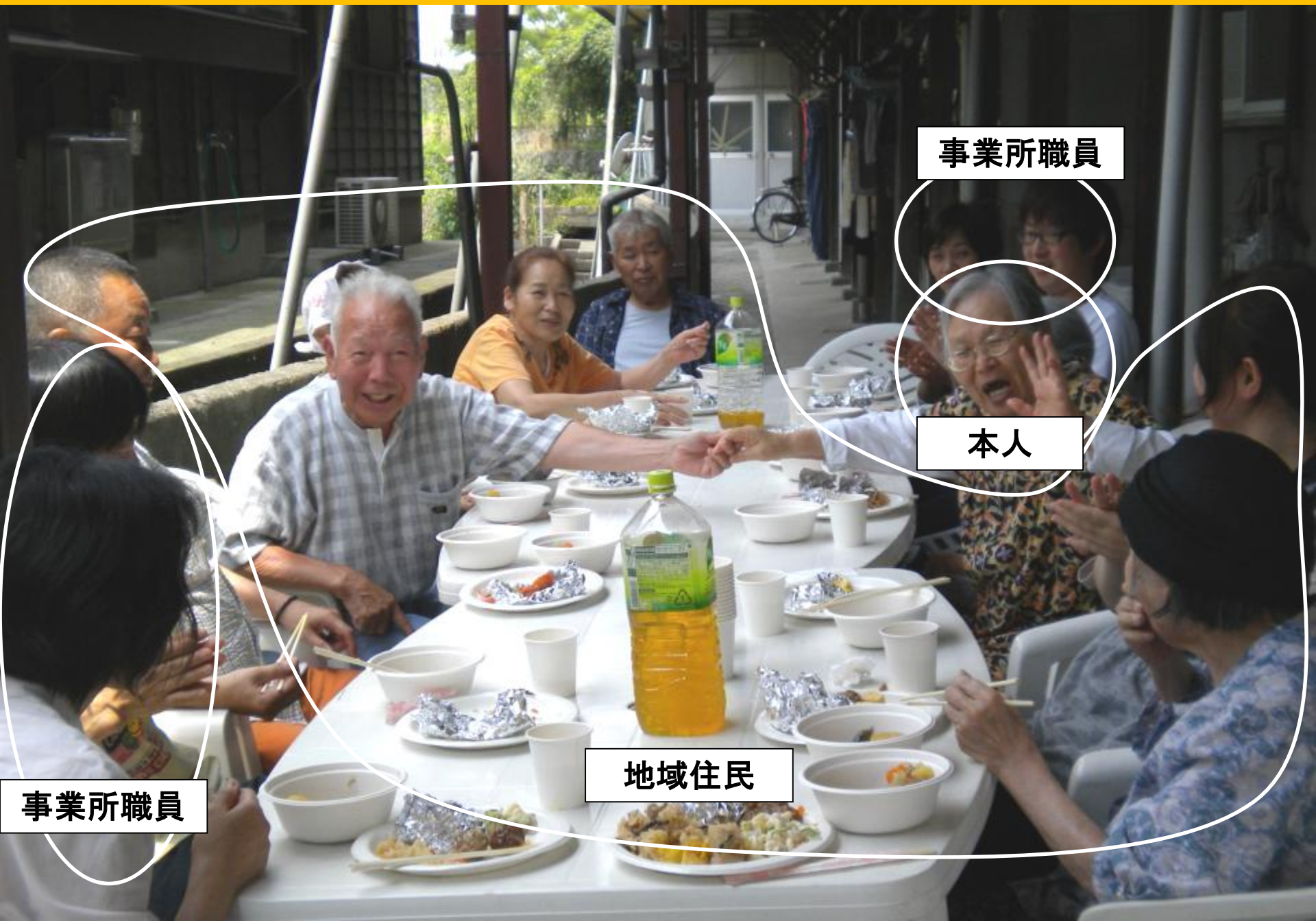
本人

インフォーマル

別居家族

フォーマル

これらの取り組みから生まれて来た事例



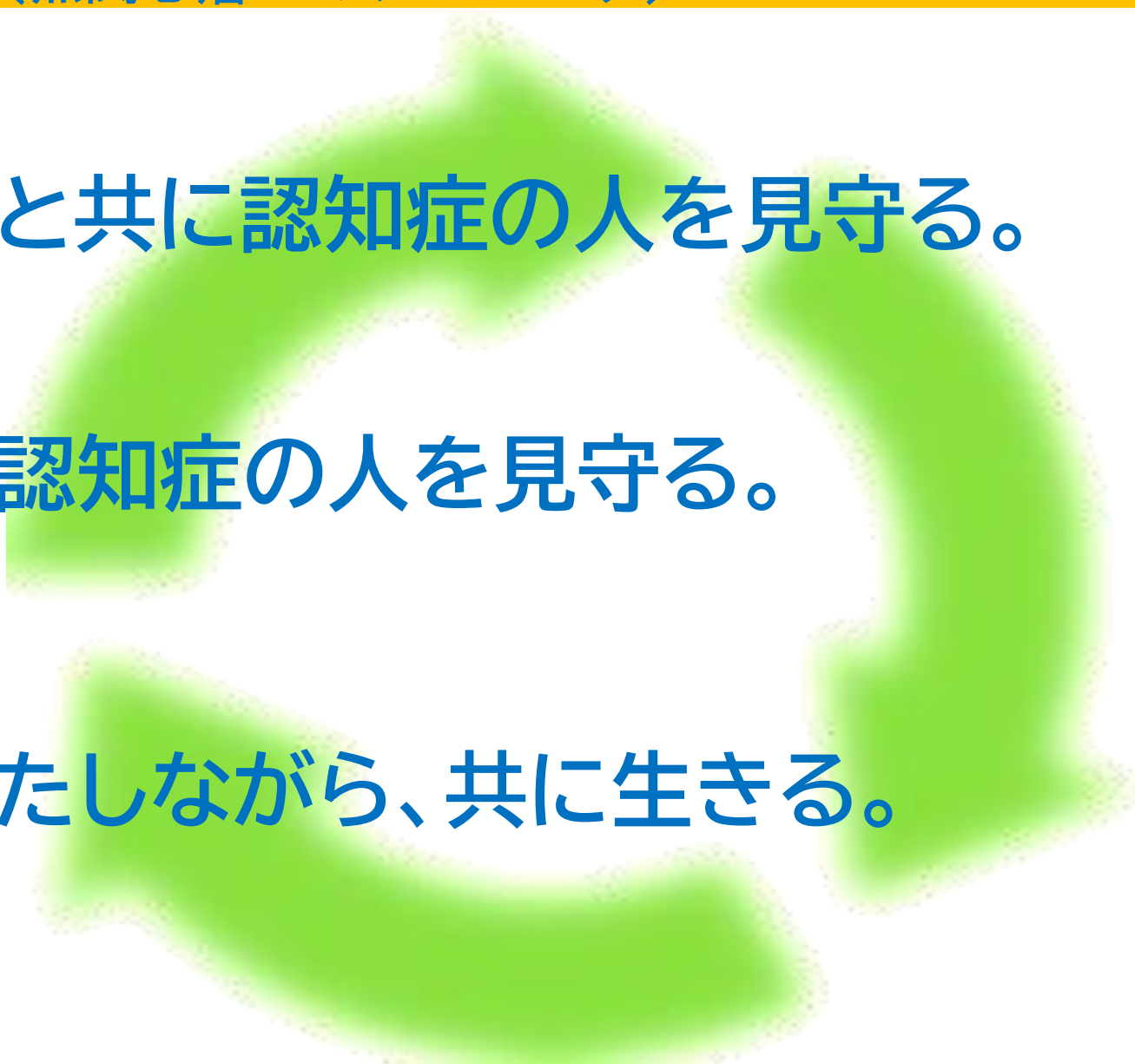
事業所職員

本人

地域住民

事業所職員

見守り体制の在り方と展開
(無関心層へのアプローチ)

- 
- ① 地域住民と共に認知症の人を見守る。
 - ② 町全体で認知症の人を見守る。
 - ③ 役割を果たしながら、共に生きる。

まちでみんなで超高齢化社会を考える

住民 × 商店 × 教育 × NPO

包括 × 福祉・医療 × ボランティア等

「困っている事」と「もったいない事」

のアイデアを掛け合わせ

楽しくわいわい 創っていく

ワークショップ 開催！！！！

「こんな町に住みたいな」 ⇒ 困っていること。もったいないこと。多業種ワークショップ



地元飲食店主

商店街会長

介護JC事務局

不動産会社

保育士

商店街副会長

自治会長&商店主

大学教員

地域包括支援センター

元報道関係者

保育士

地域包括支援センター

自動車整備工

中心商店街連 会長

地域包括支援センター

経済調査協会

地域包括支援センター

NPO代表

商店街店主

保育士

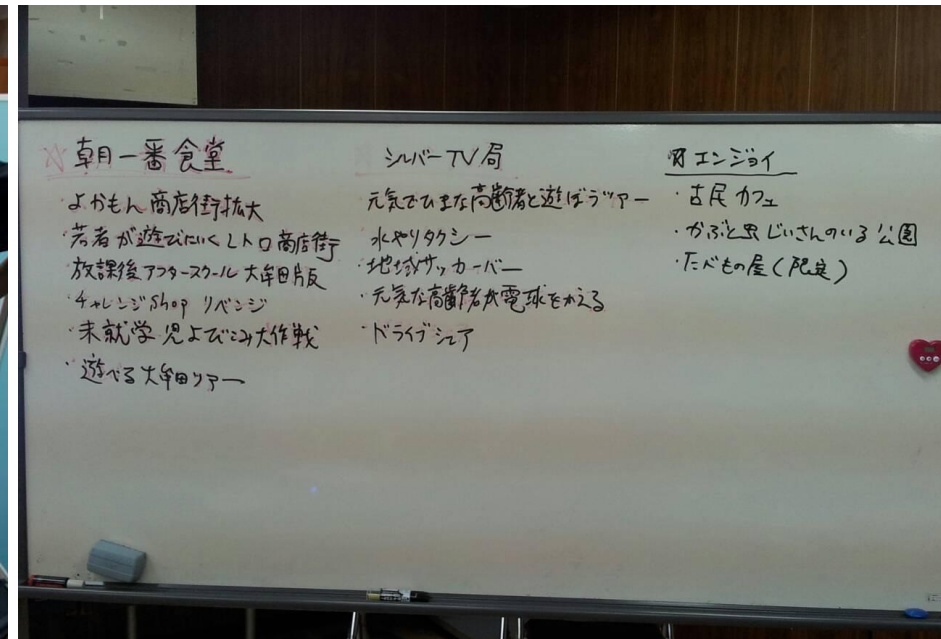
商店街ユーザー

保育士

介護サービス事業所

まちづくり団体 代表

アパレル店 店主



コミュニティが崩れ
引き籠もりがちに

やむなく施設入所



近頃 猿渡さん
来なくなったなー



ショッピングセンター



買い物難民(認知症)の為に地元商店街との共同サロン開催



認知症サポーターのいる商店街マップ

～皆さんが安心してご利用できる商店街を目指して～



認知症サポーター加盟店マップ

大正町商店街、大塚町商店街、大塚町商店街活性化協議会(主催)

① 7-イレブン 大塚駅前店
② 7-イレブン 大塚駅前店
③ 7-イレブン 大塚駅前店
④ 7-イレブン 大塚駅前店
⑤ 7-イレブン 大塚駅前店
⑥ 7-イレブン 大塚駅前店
⑦ 7-イレブン 大塚駅前店
⑧ 7-イレブン 大塚駅前店
⑨ 7-イレブン 大塚駅前店
⑩ 7-イレブン 大塚駅前店
⑪ 7-イレブン 大塚駅前店
⑫ 7-イレブン 大塚駅前店
⑬ 7-イレブン 大塚駅前店
⑭ 7-イレブン 大塚駅前店
⑮ 7-イレブン 大塚駅前店
⑯ 7-イレブン 大塚駅前店
⑰ 7-イレブン 大塚駅前店
⑱ 7-イレブン 大塚駅前店
⑲ 7-イレブン 大塚駅前店
⑳ 7-イレブン 大塚駅前店
㉑ 7-イレブン 大塚駅前店
㉒ 7-イレブン 大塚駅前店
㉓ 7-イレブン 大塚駅前店
㉔ 7-イレブン 大塚駅前店
㉕ 7-イレブン 大塚駅前店
㉖ 7-イレブン 大塚駅前店
㉗ 7-イレブン 大塚駅前店
㉘ 7-イレブン 大塚駅前店
㉙ 7-イレブン 大塚駅前店
㉚ 7-イレブン 大塚駅前店
㉛ 7-イレブン 大塚駅前店
㉜ 7-イレブン 大塚駅前店
㉝ 7-イレブン 大塚駅前店
㉞ 7-イレブン 大塚駅前店
㉟ 7-イレブン 大塚駅前店
㊱ 7-イレブン 大塚駅前店
㊲ 7-イレブン 大塚駅前店
㊳ 7-イレブン 大塚駅前店
㊴ 7-イレブン 大塚駅前店
㊵ 7-イレブン 大塚駅前店
㊶ 7-イレブン 大塚駅前店
㊷ 7-イレブン 大塚駅前店
㊸ 7-イレブン 大塚駅前店
㊹ 7-イレブン 大塚駅前店
㊺ 7-イレブン 大塚駅前店
㊻ 7-イレブン 大塚駅前店
㊼ 7-イレブン 大塚駅前店
㊽ 7-イレブン 大塚駅前店
㊾ 7-イレブン 大塚駅前店
㊿ 7-イレブン 大塚駅前店



司法・福祉・建築・税務・不動産関係専門職による
住まい確保の為にコラボレーション

大牟田

人とまちづくり協議会主催 ワークショップ

年間3回～4回開催中

熱ければ誰でも、参加可！！

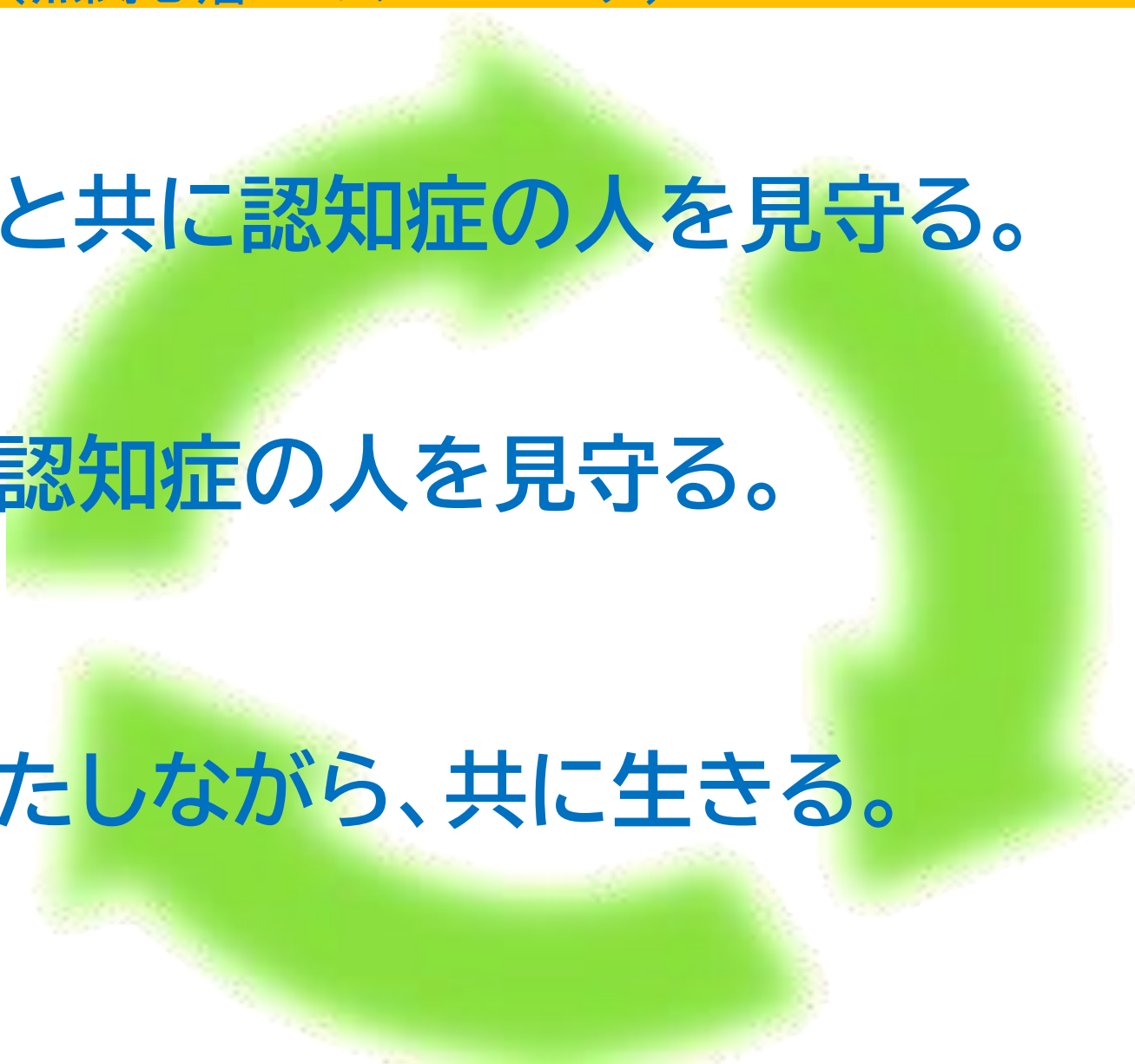
認知症の人にとっては大切な場所。私たちが繋がることで認知症の本人、お店も安心。



農業関係者や住職、パチンコ店などもWSに参加！！



見守り体制の在り方と展開
(無関心層へのアプローチ)

- 
- ① 地域住民と共に認知症の人を見守る。
 - ② 町全体で認知症の人を見守る。
 - ③ 役割を果たしながら、共に生きる。

白川校区における成果と課題

○模擬訓練の目的である“啓発”と“連絡網(セーフティーネット)”の整備、そして、その活用ができるようになることを目的に12年間取り組んできた。その結果、多くの住民が参加し「地域の中での体制」が構築できつつある。熱心に「認知症の人を支えましょう」と言い続けてきた結果だと考えている。

○一方では懐疑的になっていることもある。長年、この訓練に携わってきた人が認知症になり、閉じこもりがちになっている。これは「認知症になっても安心して外出できる」という目的とは逆の結果である。

○私自身に置き換えてみると、認知症になったら「恥」をかきたくないので自宅に引きこもるだろう。

自分の中の認知症像が「それ」であるとするれば、多くの住民も「そう」である。訓練が「それ」を作ってきたのかもしれない。

○今年からの模擬訓練は「それ」に着眼し取り組みたい。

本人の声を起点に

From the voice of the person himself

認知症の本人ミーティング



「やりたいことや、家庭のことを話せる仲間」

認知症の人と共に歩む街づくり



当事者



プロジェクト



様々なセクター

認知症にやさしいまちへ

図書館へコーナー設置

関係分野や市民の意見反映

大牟田

「認知症になってもやさしいまち」に向けた大牟田市のプロジェクト会議が25日、カルタックスでおおむたで開かれた。認知症の当事者や家族らを使いやすい図書館づくりから始まった取り組み。行政や市立図書館などの施設、医療・福祉関係者が参加。開始後の5月末には、市立図書館に認知症コーナーが設けられ、早くも環境が変わりつつあるという。3回目となった会議では、スーパ



図書館内に設けられた認知症のコーナー

ーなど視野を広げ意見を交わした。

同市は認知症になつて

も安心して暮らせるまちを目指し、地域住民、行政、医療・福祉分野が中心となり、まちづくりを進めている。認知症初期診断直後に「今後、自分はこのようになっていくのか」「そもそもどのような症状なのか」との相談があったことをきっかけに会議がスタート。

用できれば、すぐに調べることができるが、高齢者の多くは書物から情報を収集。図書館で本を探しても認知症に関する本は、医学や福祉・介護のコーナーなど点在していた。そのため利用しやすい環境を目指し、5月末には認知症関連の本を並べたコーナーが図書館に設置された。

今回「できやうなこと、取り組みたいこと」

早くも環境変わりつつある



認知症にやさしいまちへ意見を出し合ったメンバーら

若い世代などはパソコンやスマートフォンを利

なく、グループごとに意見をまとめて発表した。参加者は、図書館から金融機関や交通機関などにも目を向けて意見。メンバーの陳列を見やすく」と高齢者や認知症にやさしいとの視点での工夫を提案。当事者の話を聞いて学ぶ「ロゴマークを設置し普及を」と緒にまちを歩いて何が不便かを見たい「学校の

た。(高田 裕子)

認知症にやさしい図書館 & 博物館プロジェクト



認知症の人と共に作る街づくり

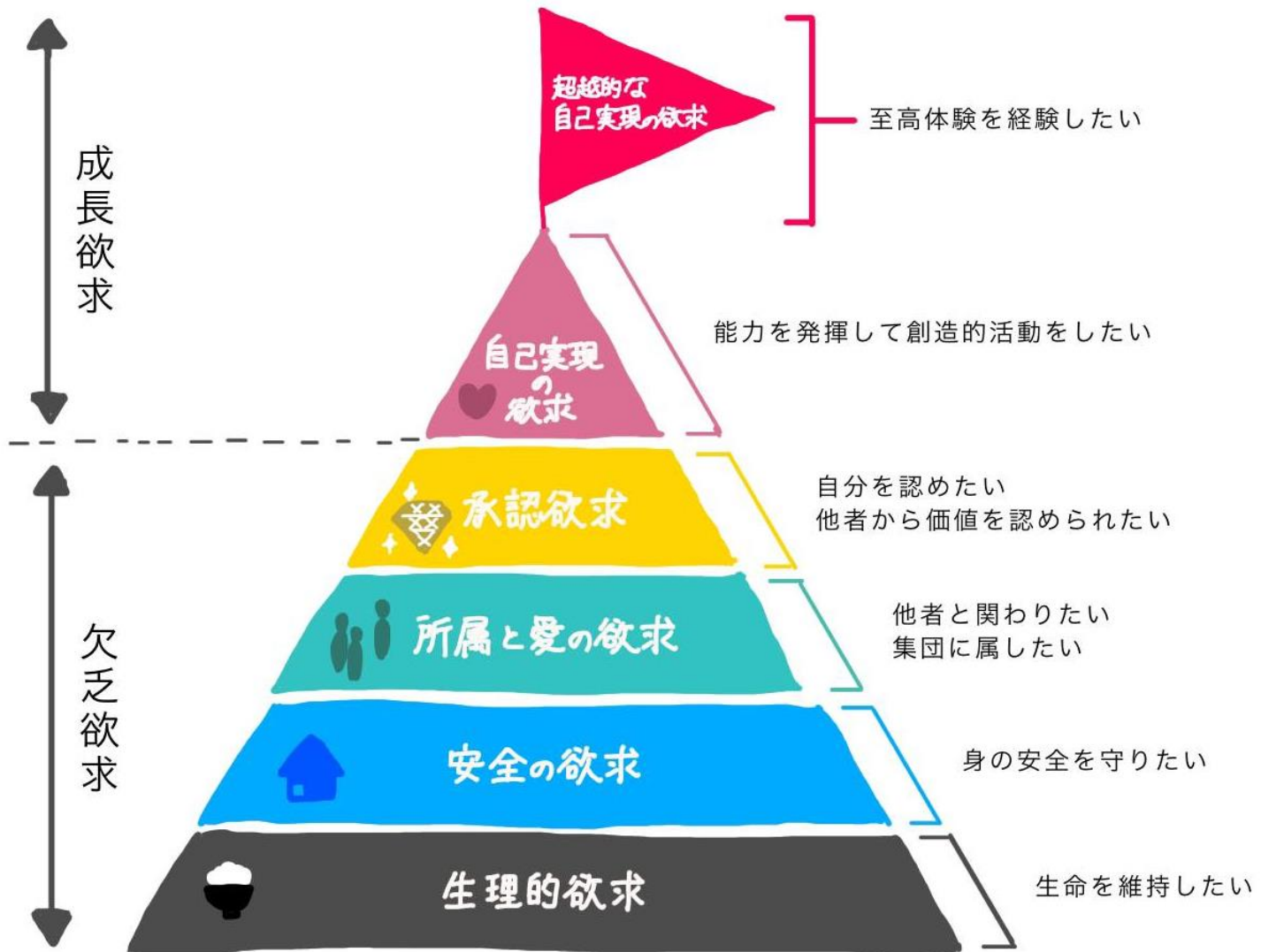


本人が望む暮らしを

The life that the person himself wants

人間の欲求理論

マズローの欲求5段階説



認知症の人の就労や社会参画WS



- ・企業関係者
- ・高齢福祉関係者
- ・行政関係者



認知症の人の就労や社会参画

有明新報 2018.4.19

新たな社会支援の創出に



洗濯作業に取り組み施設利用者たち

この取り組みは、同市 健康福祉推進室健康長寿支援課が中心となり、地域共生を目指し、新たな社会支援の創出を目的に行われている。これまで事業所と福祉施設に呼

要介護高齢者 生き生きと

大田市内のデイサービス利用者が、市内の業や事業所で生き生きと働く姿が見られている。仕事に汗を流しているのは要介護の高齢者たちで、働くことで価値を手にする。現役の時のように、自分たちが、自分たちも、またまた社会につながって役に立つことができるといふ思いが自信につながり、日々の生活にも張りが出てきているという。高齢者にとって、働くことが新たな生きがいになっている。

ピエール介護小規模多機能 能利居宅介護事業所リビングアール小浜、石橋アイムで小規模多機能ホームいままでの家といった各施設を利用する高齢者たちが、仕事に取り組んでいる。仕事内容は、要介護の高齢者が安全に取り組みことができると比較的程度

現在、同店で働いているのは要介護1、2などの高齢者。2月末から練習を行い、正式に3月から働かされた。最初は1時間かけて1台を仕上げるとも難しかったが、今はその洗濯を完了するところまでという。同施設を運営する森健一朗さんは「最初は戸惑いもありました。本日に

事業所が軽作業提供

市担当課呼び掛けて

大牟田

デイ利用者ら1時間程度

なもの。事業所側は労働力の確保と社会貢献、高齢者側は社会のつながりや生きがい創出というメリットがそれぞれある。何より、わずかながら、誰に気兼ねすることなく使える、とてもうれしい」と。 ホンダカーズ大牟田北手帳店では週に4日、リとを通し表情も明るくなり、日常生活の活動性も上がっていますと驚きを隠さない。 高齢者たちは、働くことで「また自分たちは働けることができる」と自信を持つようになり、できなくなっていたことでチャレンジする姿勢も見え



(小柳 聡)

誰のためか、何のためか

For everyone, for what